

平成27年9月 データから見た業界の動き

■ 概 況

9月の景況は、台風等の天候不順による生鮮食料品等の値上がりに伴い消費者マインドの低下が色濃くなった。

また、公共工事の発注件数や金額の減少により地域経済の景況悪化や中国経済の急激な減速により山梨県内の電気機械器具製造業や地場産業である宝飾業の受注が減少するなどの影響が出始めているとの報告が多い。

しかし、円安で日本での滞在や買い物が割安になっているのに加え、政府による査証（ビザ）の発給要件緩和や消費税の免税制度拡充等により訪日旅行者によるインバウンド消費は宿泊業を中心に拡大が続いており中国の景気下振れの影響は当該する業界では、まだうかがわれない。

総じて、山梨県内の中小・小規模企業は原材料高や人手不足によるコストの増加が続き、仕入・製造コストを押し上げるも販売価格への転嫁が進まず収益が圧迫される企業が増加すると見込まれる。

■ 業界からのコメント （業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照）

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	ギフト関係は前年比30%減少だが、おせち関連や生食材等が順調のため全体の売上は前年同月比120%。
食料品（洋菓子製造）	自社製品や台湾向け輸出が順調のため、全体の売上は前年同月比107%。原材料が高止まりしており採算面は改善していない。
食料品（菓子）	前年よりも売上は増加傾向にあるが、円安等の影響で原材料が高騰しているため値上げ分を価格転嫁できず利益確保が難しい。
繊維・同製品（織物）	ネクタイや傘地は来期用見本の準備、裏地やインテリア用品は受注が一段落し今月は厳しい。また、クールビスによる影響やブランドメーカーとの生産契約が終了したため産地としての生産量は減少傾向にある。
繊維・同製品（アパレル）	秋冬物の受注は鈍化。しかし、自社ブランドの製造販売は好調。
木材・木製品製造	前年のような波のある月は少ないが、9月の売上は減少。
窯業・土石（砂利）	山梨県より公共工事が追加発注されたが、道路工事が多く骨材の需要は少ない。
窯業・土石（山碎石）	製品出荷量が前年当月比12%以上減少し、さらに諸資材の高騰により利益率は下降気味。

鉄鋼・金属	全体に受注量が下降気味。
電気機器①	電機、鉄鋼、機械など各業界において物量の変動が激しく納期やコスト面で厳しい状況にある。短納期、低コストでの受注のため、原材料、人件費が割高となり受注量が増加しても採算が難しい。
電気機器②	中国経済が急激に減速しているため、国内の景気も急速に鈍化。さらにシリア難民がヨーロッパ(EU圏)に多量に流入したためEU圏も中国経済の減速と重なり、更なる不況に陥ると予測する。9月は大手企業の上期末により多少受注増だが、今後、国内景気もさらに減速となる見通し。
宝飾(研磨)	9月は、国内外で展示会が重なっているため売上増となる時期だが、中国の金融不安から中国人バイヤーの仕入が慎重になっている。国内需要は非常に厳しい。
宝飾(貴金属)	景況は低下気味。

● 非製造業

卸売(紙製品)	一時的と思われるが国内需要が増加し価格を押し上げている。新聞や雑誌の購読数が半減し、さらに古紙は減少傾向。仕入れ競争が激化し収益確保が厳しい傾向にある。
卸売(ジュエリー)	国内需要が厳しい上、中国経済の減速などにより中国バイヤーへの販売も下降気味。例年、年末、クリスマス商戦の受注がある時期だが動きが鈍い状況。9月末に開催した国際宝飾展も来場者数が少なく厳しい状況であった。
小売(青果)	台風等の影響により入荷量が減少したため、価格面は高値で推移した。消費減少と売上減少が直結し全体的に収益の低下となった。
小売(食肉)	シルバーウィーク等の影響もあり前年同月比、売上は伸長。また、前月まで高騰していた国内産の豚肉の取引価格が値下がりしたため、収益面も多少好転した。
小売(事務機文具)	廃業等が増えているため、需要減の時代でも残った事業者は何とか経営を継続できている。
小売(石油)	原油価格が値下がり、それにより卸売価格も下がっているが、それ以上に市場が下がっているため粗利益を圧迫している。慢性的な人手不足で人材確保難が続いている。
商店街	シルバーウィーク等もあり県内外からの来街者数が増えている。
不動産取引	値引き交渉の依頼が多い。また、八ヶ岳南麓の物件の問い合わせが増加傾向。
宿泊業	シルバーウィークがあり宿泊が好調だった反面、宴会等の需要は低調。しかし、外国人旅行者は増加傾向にあるため連休直前の宿泊予約は困難な状況。
美容業	固定客の減少や高齢化のため客単価、売上ともに伸びない。

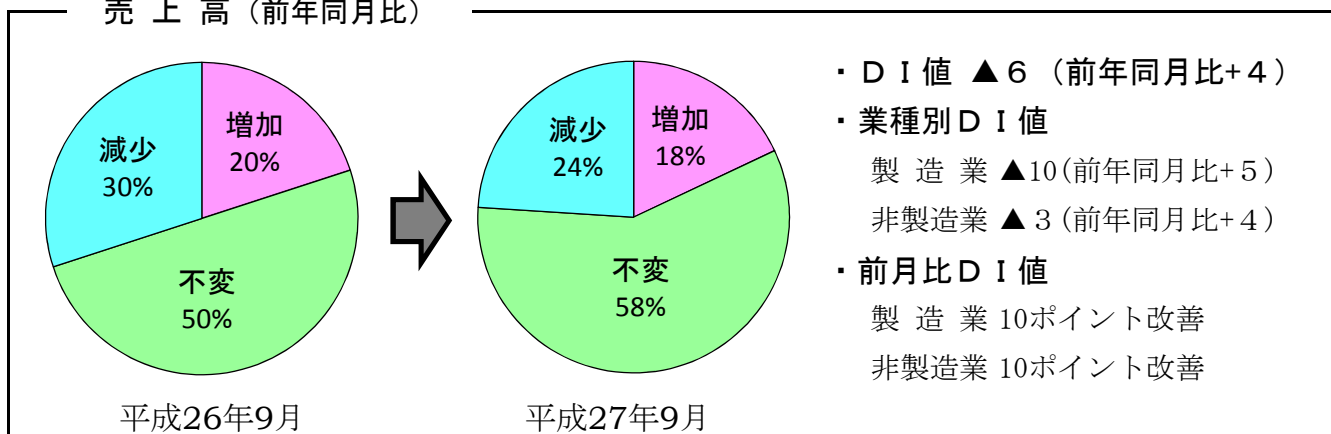
廃棄物処理（事業系）	一般廃棄物処理センターの処理能力が異なるため、各自治体の処理計画も統一されておらず、違法な事業者が後を絶たない。
警 備 業	売上は、前年同月比5%減、前月比5%増となった。販売価格や取引条件は改善傾向にある。
建設業（総合）	9月の県内公共工事動向は、前年同月比、件数9%減少、請負金額7%減少。9月までの累計では、件数10%減少、請負金額8%減少。
建設業（型枠）	9月に入り急激に景気が悪化した。今年の前半は、仕事が無く困った組合員が多かった。7月以降仕事はあるものの絶対数が少なく、暇な状況が続いている企業が多い。
建設業（鉄構）	県内は公共物件が少なく中弛み傾向。首都圏を中心とした県外物件により稼働率を高め経営を維持している。慢性的な技術者・技能者不足が続いている。
設備工事（電気工事）	民間工事は増加傾向だが、公共工事は減っている。元請工事が減って、下請工事が増加傾向。
設備工事（管設備）	円安による原材料の値上げ等、経費の上昇分を価格に転嫁できず体力を消耗させている。また、人手不足による人件費の増加も収益悪化の懸念材料である。景気動向は公共工事発注の増加により好転すると考える。
運輸（タクシー）	業況は良くないが、イベントの開催等があり売上は前年同月比伸長。
運輸（トラック）	労働時間を短縮させるため、高速道路の使用が増加し前年同月より経費増の傾向にある。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

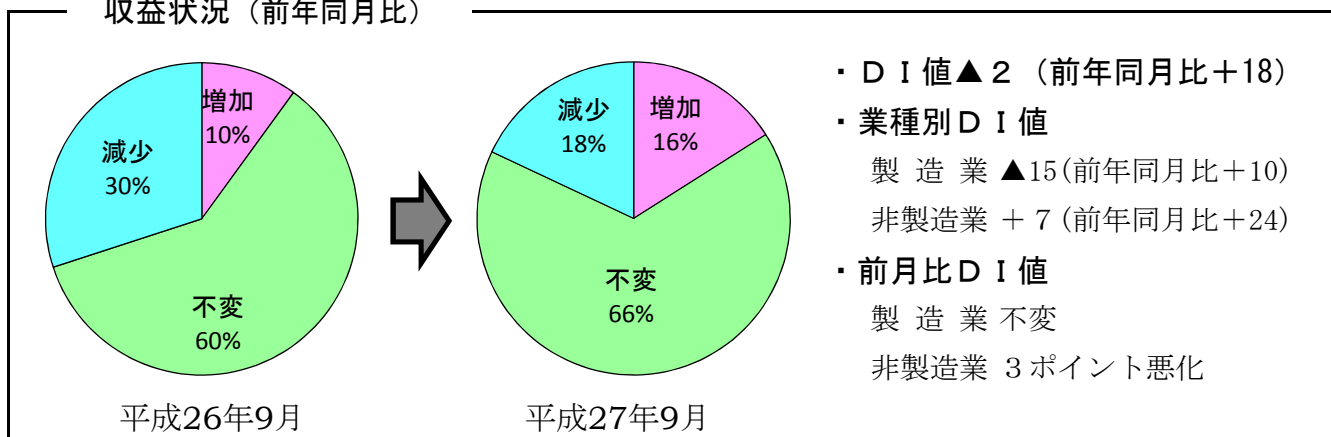
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2014/9	2015/8	2015/9	2014/9	2015/8	2015/9	2014/9	2015/8	2015/9
売 上 高	-15	-20	-10	-7	-13	-3	-10	-16	-6
収 益 状 況	-25	-15	-15	-17	10	7	-20	0	-2
景 況 感	-15	-15	-20	-20	-17	-17	-18	-16	-18

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

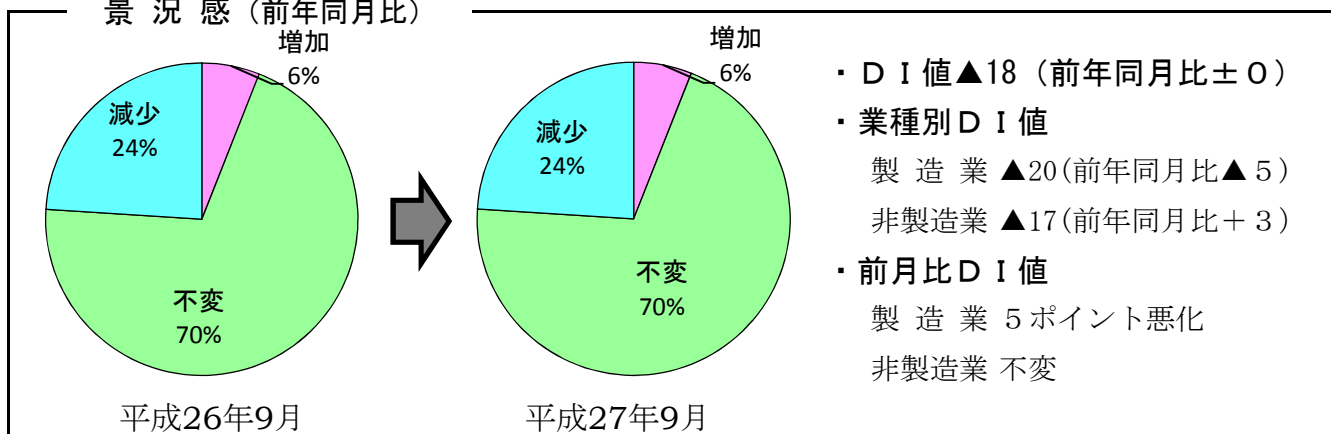
売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）



昨年対比グラフ

売上高

	増加	不変	減少
平成26年9月	20%	50%	30%
平成27年9月	18%	58%	24%

収益状況

増加	不変	減少
10%	60%	30%
増加	不変	減少
16%	66%	18%

景況感

増加	不変	減少
6%	70%	24%
増加	不変	減少
6%	70%	24%